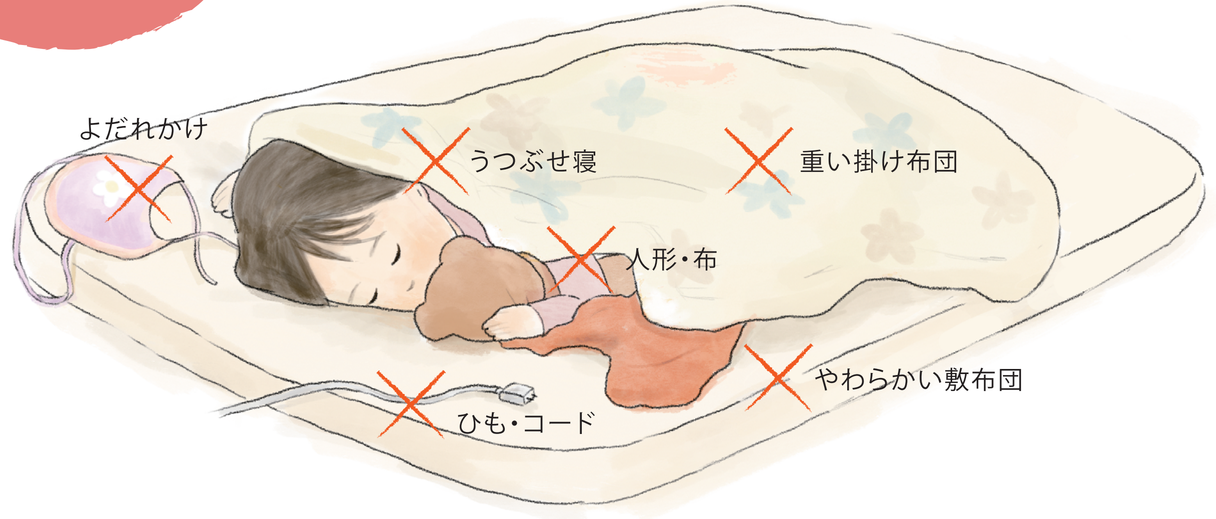
こどもの 重大な事故を防ぐためのポイント ねる・たべる・みずあそび

教育・保育施設等の職員向け

ねる ときにきをつけること



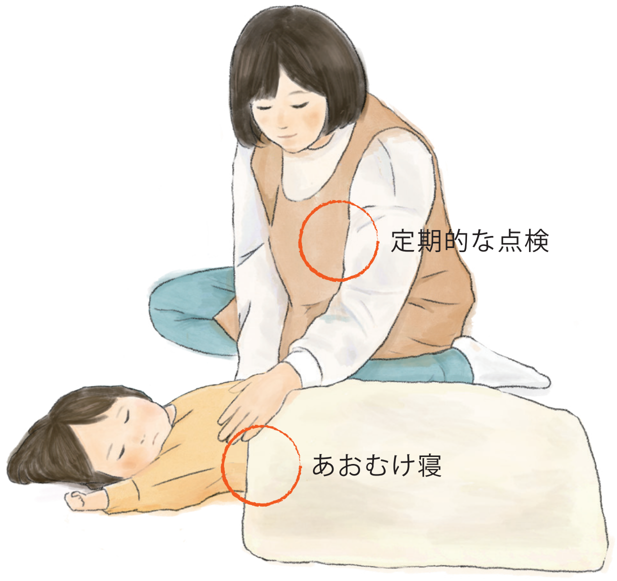
❶ 乳児の睡眠中は次のことに気をつけましょう

□**こどもを一人にしない**…異変をすぐに察知できるようにする

□**あおむけに寝かせる**…うつぶせ寝の状態で顔が横向きの体勢も避ける（医学的な理由で医師からうつぶせ寝を勧められている場合以外）

□**やわらかい敷布団、重い掛け布団や、ぬいぐるみ等を使用しない**…顔が埋まったり、払いのけられなくなったりして、鼻や口がふさがれないようにする

□**ヒモまたはヒモ状のものを置かない**…首に巻き付かないようにする（例：よだれかけのヒモ、ふとんカバー内側のヒモ、ベッドまわりの電源コードなど）



❷ 乳児の様子を確認しましょう

□口の中に**異物や、ミルクや食べたもの等の嘔吐物**がないか確認する…のどや気管につまらせないようにする

□定期的に**こどもの身体に触れて呼吸・体位、睡眠状態を点検**する…職場のマニュアルやチェック表などに合わせる

□**預け始めの時期は特に注意深く見守る**（例：慣らし保育を行うなど）

※乳児のほか、こどもの発達や健康状態によっては1歳以上でも定期的な確認を行い、状況に応じてあおむけに寝かせる

ねるときにひそむリスク

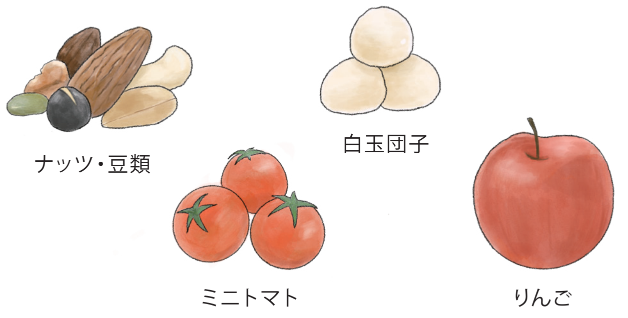
- 睡眠中、うつぶせ寝でぐったりしているのを発見される死亡事故が繰り返し起きている
- 睡眠中は、窒息のほか、乳幼児突然死症候群（SIDS）のおそれがあり、予防方法は確立していないが、**寝るときにうつぶせで寝かせたときのほうがSIDSの発症率が高い**とされている
- やわらかい布団やぬいぐるみ等が**鼻や口をふさいだり**、ヒモまたはヒモ状のものが**首に巻き付いたりして窒息**するリスクがある
- **預け始めは事故が多く**、過去の事故検証報告ではリスクが高いと指摘されており、こどものストレスや、発達状況の把握が必ずしも十分ではないことが影響している可能性もある

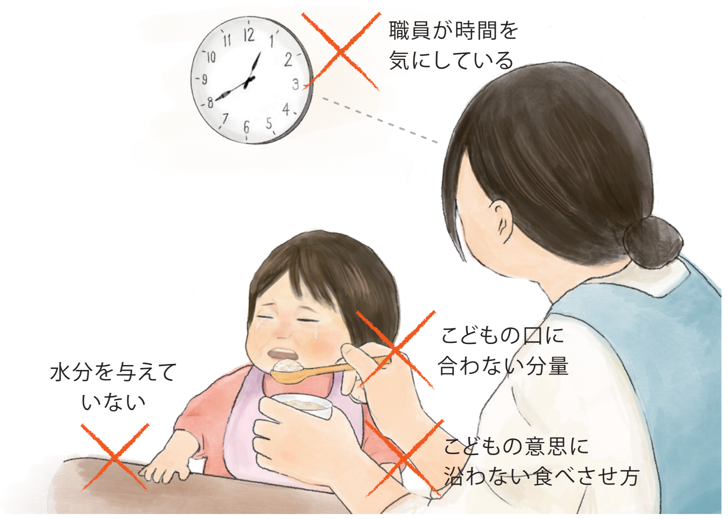
こどもの 重大な事故を防ぐためのポイント ねる・たべる・みずあそび

教育・保育施設等の職員向け

たべる ときにきをつけること

過去に事故が発生した食材



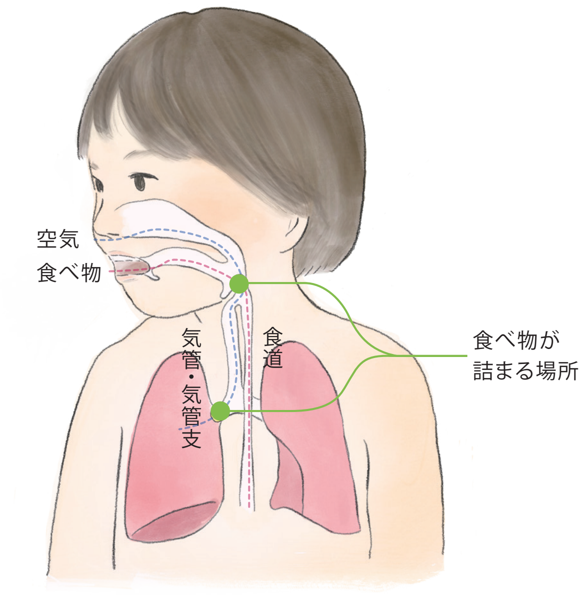


❶ 食材については次のことに気を付けましょう

□こどもの年齢月齢によらず、**普段食べている食材が窒息につながる可能性**があることを認識する

□**球形・かたい・粘着性が高い**といった形状や性質の食べ物は避ける（過去に事故が発生した食材の例：**ナッツ・豆類（ピーナッツなど）、ミニトマト（プチトマト）、白玉団子、ぶどう**など）

□**りんご**なども**基本的に使用を避け**、どうしても食べさせる場合は、**離乳食完了期までは加熱**して与える…過去に事故が発生しており、かむことで細かくなったとしてもかたさ、切り方によってはつまりやすい



❷ 食事の与え方・介助の仕方に配慮しましょう

□食べ物は**こどもの口に合った量**で与え、汁物などの**水分を適切に与える**…のどや気管につまらせないようにする

□**こどもの意志に沿うタイミング**で与える…眠くなった、もう食べたくないといった食べることに集中できない様子を確認したら無理に食べさせない

□食事中に**驚かせない**

❸ こどもの様子を共有・観察しましょう

□食事前に**保護者や職員間でこどもの食事に関する情報を共有**する（例：食べるための機能や食事に関する行動の発達状況、当日の健康状態など）

□食べ物を**飲み込んだことを確認**する（口の中に残っていないか注意）

□食事中に**眠くなっていないか・姿勢よく座っているか**を注意する

たべるときにひそむリスク

- こどもは、**奥歯が生えそろわず、かみ砕く力や飲み込む力が十分ではない**
- 硬くてかみ砕く必要のあるナッツ・豆類などを**のどや気管に詰まらせて窒息**（ちっそく：食べ物がのど等につまること）したり、**小さなかけらが気管に入り込んで肺炎や気管支炎**を起こしたりするリスクがある
- 食べ物を口に入れたままで、走ったり、寝転んだり、笑ったり、泣いたり、驚いたり、声を出したりしたあと、**一気に息を吸い込むと口の中の食物片が気管支に吸い込まれて、窒息・誤嚥**（ごえん：食べ物などが気管や気管支に入ること）のリスクがある

みず あそび

のときにきをつけること

こどもの 重大な事故を防ぐためのポイント ねる・たべる・みずあそび

教育・保育施設等の職員向け

❶ 監視体制を確保しましょう

□「**専ら監視を行う者**」と「**指導等を行う者**」**を分けて配置し、役割分担を明確**にする

□十分な監視体制の確保ができない場合は、プール活動・水遊びの中止も選択肢とする

❷ 監視者は監視に専念し、こどもから目を離さないようにしましょう

□監視者は、**片付け、こどもの相手など他の作業を行わない（時間的余裕をもつ）**

□**目立つ色の帽子**などを身につける…**誰が監視者であるか分かる**ようにする

□こどもに「監視の先生はみんなを守ることが仕事なので、話しかけない・用を頼まない・一緒に遊んだりできない」ことを知らせておく

□エリア**全域を見渡せる場所**から**規則的に目線を動かしながら監視**する

□**動かないこども**や、集団から外れて動くなど**不自然な動きをしているこども**を見つける

みずあそびのときにひそむリスク

- 過去に、監視役の先生が、遊具の片付けなど、**ほかの作業を行っていて、ふと目を離したすきに、こどもがおぼれた事故**が起こっている
- **監視場所に近いところ**や、**浅い場所**など、一般に安全と思われる場所も、おぼれる可能性がある
- おぼれるときは、助けを求めたり、苦しくて暴れるといった反応とは限らず、**静かにおぼれることも多い**と言われている

応急 処置

こどもの 重大な事故を防ぐためのポイント ねる・たべる・みずあそび

教育・保育施設等の職員向け

もしこどもの窒息などが起きてしまったら

突然心臓が止まったり、おぼれたりした場合、
一刻も早い手当てが必要です。
すぐに**119番・応急処置**を開始しましょう。

心肺蘇生法 胸骨圧迫（心臓マッサージ）

強さ 胸の厚さが3分の1くらい沈む強さ

速さ 1分間に100〜120回

幼児：胸骨の下部分を、手のひらの根元で押す

乳児：左右の乳頭を結んだ線の中央で少し足側を、指2本で押す

背部叩打法

幼児：こどもの後ろから片手を脇の下に入れ、胸と下あご部分を支えて突き出し、あごをそらせる。片手の付け根で両側の肩甲骨の間を強く迅速に叩く

乳児：片腕にうつぶせに乗せ顔を支えて、頭を低くして、背中の真ん中を平手で何度も連続して叩く

胸部突き上げ法

片手で体を支え、手の平で後頭部をしっかり支える。
心肺蘇生法の胸部圧迫と同じやり方で圧迫

腹部突き上げ法

後ろから両腕を回し、みぞおちの下で片方の手を握り拳にして、腹部を上方へ圧迫
（※幼児のみ、乳児は除く）

参考資料

こども家庭庁
教育・保育施設等における事故防止及び事故発生時の対応のためのガイドライン
教育・保育施設等における重大事故防止策を考える有識者会議 年次報告
https://www.cfa.go.jp/policies/child-safety/effort/guideline/

こども家庭庁
乳幼児突然死症候群（SIDS）について
https://www.cfa.go.jp/policies/boshihoken/kenkou/sids/

消費者庁
食品による子どもの窒息・誤嚥（ごえん）事故に注意!
https://www.caa.go.jp/policies/policy/consumer_safety/caution/caution_047/

政府広報オンライン
窒息事故から子どもを守る
※玩具や食べ物などによる窒息のメカニズム・事故が起きてしまった際の対処法を解説
https://www.gov-online.go.jp/prg/prg16245.html

こども家庭庁
こどもの事故防止ハンドブック
https://www.cfa.go.jp/policies/child-safety-actions/handbook

消費者庁
幼稚園等のプール活動・水遊びでの溺れ事故を防ぐために
https://www.caa.go.jp/policies/council/csic/teaching_material/

監修 令和5年度子ども・子育て支援調査研究事業「教育・保育施設等における『教育・保育施設等における事故防止及び事故発生時の対応のためのガイドライン』等の効果的な周知方策についての調査研究事業」検討委員会

編集・発行 PwCコンサルティング合同会社　**デザイン** 富田誠・富田真弓　**イラスト** 岩瀬未佳